

お金をどのように分配するか、など一般企業では考えられないことが自分たちで決められます。

以前の職場で社長に「あなたの給料は多すぎるから半分にします」なんて言ってみたかったです。

今後、ワーカーズ・コレクティブを規定する法制度が整い、ワーカーズ・コレクティブで起業する人が増えたらいいなと思います。一人で起業できる人もいるのですが、仲間と何かを始めようと思ったとき、だれかを雇用主にするのではなくみんなが平等なワーカーズ・コレクティブのほうが良いと思う若者は多いのではないのでしょうか？

そのためにはメディアにどんどん取り上げてもらえるようにその方法を考えていきたいと思います。

企業組合ワーカーズ・コレクティブわかば

篠原文昭

大手企業、派遣労働の現場を体験して

人は誰かの役にたっている実感を持てたとき幸せを感じるのではないのでしょうか？多くの人は幸せに生きることや、人の役に立つことを、と思い仕事に就いています。しかし、この社会の労働の現場は深刻な問題をはらんでいます。

大手企業で仕事をし、派遣労働を体験した人が小さなワーカーズ・コレクティブで充実感を得ている実態がここにあります。

企業利益のために働き、体調を崩し「むすび」の起業メンバーに

子供には食べさせられない食を作り続け…

私の前職は、レストランや給食事業を展開する大手企業でした。

ある会社の社員食堂で調理を担当していました。アルバイトで入社した当初から、食材は安心できるものを使いたいと考えていましたが、会社では化学調味料、保存料、輸入食材など、当たり前前に使用していました。

あげるべき利益と商品の売値が決められている中で、さらにコストを下げるために、食材の質を下げ、人員を削減していました。

子供には食べさせられないと思いながら、与えられた仕事をこなす毎日でした。生活を安定させるため、契約社員、正社員と昇格するまで、とまかく頑張るしかありませんでした。

正社員への昇格がようやく見えてきた時、私は仕事に倒れ、入院、手術しました。過労とストレスで体重は平常時から13キロ減っていました。結局、退社して自宅療養することになり、これからどんな仕事ができるのか、雇われる以外に働く方法はあるかなど、様々考えました。このときに、埼玉県障害者交流センター内にレストランを開くという呼びかけがあり、ワーカーズ・コレクティブを知りました。

仕事の喜びを取り戻す

話し合いをして皆で決める、仕事場を作る、安心できる食材で、こうだと思えるサービスを実現できるとしたら素晴らしいことだと思い参加しました。

「むすび食堂」を開業して、今ではお客様に理解も得られつつあると思います。お客様とのつながりもできています。店で子供に食事をさせられたときは嬉しかったです。素直に「どうぞ」と食事を出せるというのは喜びです。

それでも、経営、売り上げの問題はやはりあります。小学生の子供を持つ身としては不安は拭えません。

今は生協の配送を担うワーカーズと掛け持ちで仕事をしています。配送先で、食材や暮らし方に同じように関心を持つ組合員さんと話をするのは心強くもあり、勉強になっています。

一般社団法人ワーカーズ・コレクティブむすび

稲見穂也



むすび食堂店内



お弁当の配達も行

「派遣さん！」…ちゃんと名前があるのに派遣労働の問題

いわれなき偏見に耐えた末、解雇に

都内にある M 大学の産休育休の代替えとして 2 年ほど派遣で働いていました。派遣労働をするためには、派遣会社に登録する必要があります。ここでは契約更新があること、当初次の仕事もあると伝えられていました。

仕事は主にパンフレットの校正や電話対応、HP の更新などでした。ここでは派遣と嘱託職員 3 人がお茶当番をやり、全員のコップを洗っていました。ある時 20 代の女性職員が「コップを洗うのは低所得者がやればいい！」と言い放ちました。また他